

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.152 2007.9.1

権力を愛した女帝
運命に翻弄されたラストエンペラー
女帝西太后とラストエンペラーとして
有名な宣統帝溥儀の2人に
焦点をあてた特別展です。
美術品や貴重な資料類
約120点を展示しながら
清朝末期の2人の
運命をたどります。

北京故宮博物院展

松本市市制施行100周年記念



慈禧太后 朝服像
(じきたいこうちやうふくそう)



銀鍍金嵌珠五鳳鈿子
(ぎんとせんかんしゆごほうでんず)

明黄色綢緞彩雲龍紋夾朝袍
(めいこうしよくちゆうしゆうさいうんりゆうもんきやうちやうほう)

2007.9.14^土～10.14^土

THE PALACE MUSEUM BEIJING EXHIBITION

松本市立博物館 一般1,000円(前売800円)

小中学生・障がい者手帳持参の方(付き添い1名を含む)は無料

右/西太后・慈禧
左/宣統帝・溥儀

もくじ

誌上博物館◇知られざる江戸時代信州の鉄砲開発者たち

～時計博物館5周年記念特別展を終えて～ … 2-3

ガイドコーナーはんでんぼく …………… 4



松本市制 100周年

知られざる江戸時代信州の鉄砲開発者たち

～時計博物館5周年記念特別展を終えて～

はじめに

市制施行100周年にあたる本年、時計博物館もおかげさまで9月1日に開館5周年を迎えました。

これを記念して8月4日から9月2日まで、特別展「澤田平コレクション—和時計と鉄砲」を開催しました。この特別展では、鉄砲と和時計の歴史的・構造的な類似性が示唆されたのと同時に、これまであまり注目されてこなかった江戸時代の信州の優れた砲術家が製作した鉄砲や、その技術を応用したユニークな発明品も展示しました。信州で開発された銃は、当時の最先端技術が結集された非常にすばらしいものであった—そうした事実はなかなか知られていませんでした。そこで今回の誌上博物館では、信州の銃工や発明家たちにスポットをあててご紹介してみたいと思います。

鉄砲の伝来から江戸時代の新式銃の開発

鉄砲は、天文12年(1543)に種子島に初めて伝えられたといわれています。戦国時代という時代背景から、鉄砲はたちまち全国に広く普及していきました。その後、戦国期が終焉して、徳川幕府による約300年間におよぶ天下泰平の時代がやってきます。戦乱が終わった世の中でも、鉄砲は廃れませんでした。農民層にも狩猟道具として普及する一方、武家社会では全国に600を越す砲術流派が生まれ、それぞれの流派で独自の工夫をこらした銃や大砲が開発されていきました。この頃の銃は、実践の武器というよりは、武芸を極める鍛錬の道具として用いられるようになっていったようです。各流派において、独自の開発を行っていく中で、いかに速く打てるのか、また連発ができるのかという点が追求されていきました。

1 信州の鉄砲開発者たち

佐久間 象山

[1] 西洋への関心

佐久間象山は、文化8年(1811)に、松代(現・長野市松代)に生まれました。象山は、20代のころ2度にわたって江戸に遊学しています。天保13年(1842)、松代藩主・真田幸貫が幕府の海防掛に任命されると、象山は顧問となって西洋の事情について調査もしています。そして、「海防八策」といわれる長文の意見書を藩主に提出しました。さらに嘉永6年(1853)、今度はアメリカの軍艦が浦賀に現れると、松代藩の江戸藩邸にいた象山は、早速浦賀に向かいこれを実見したのです。このように諸外国船の来航や、日本とは明らかな軍備の違いの認識により、西洋への興味関心がますます深まっていったようです。

[2] 砲術家への道 ～^{じんはつげきじゅう}迅発撃銃の開発～

西洋砲術への関心は、江川担庵への入門から始まります。ここで学んだ後、江川の門下を離れ、嘉永3年(1850)には江戸深川の藩邸に自ら「砲術教授」の看板を掲げました。勝海舟もこの頃象山に入門しています。安政3年(1856)には自ら「迅発撃銃」という元込式の雷管銃を発明しています。開発した銃は残念ながら現存していませんが、象山が記した設計図によると、この銃は火縄銃が1発撃つ間に10発発射できたという画期的なものだったようです。この優れた銃の開発には、象山とともに江川門下で学んだ松代藩士・片井京助(後述)も携わりました。

[3] 様々な科学実験

電気治療機

西洋への関心は、砲術だけでなく医学・科学などにも及びます。特に有名な発明品としては、電気治療機(エレキテル)があげられます。これは、電磁誘導を利用して持続的に電気を取り出して、電気治療機としたものです。この電気治療機は、元来別の目的で開発されていたものから応用され、製品となったものです。電池部分は、地中や水中に火薬を置き、そこに電気を通して火薬を爆発させようとする地雷ないしは水雷を開発するなかで作られました。一方、電気を通すコイル部分は、電信機を製作する試みのなかで作られたものといわれています。文久2年(1862)、象山の妻・順子(勝海舟の妹)がコレラにかかった際、象山が投薬治療するものの効がなく、最後にこの電気治療機で治癒させたというエピソードがあります。



電気治療機

地震予知器

象山は、「^{じんぞうじけつ}人造磁塊」と呼ばれる地震予知器を発明しています。馬蹄形をした磁石に鉄片が付いており、これが地震の起きる前には離れるというものです。象山は、地震だけでなく台風や山崩れの起きる前にも同じ現象で予知できると言っています。地震発生の数時間から数日前には磁力が弱まる—ということが、江戸時代から知られていました。安政2年(1855)の江戸の大地震においても、磁

石に吸い付いていた古釘などが離れてバラバラと地面に落ちてしまったという話があります。こうしたさまざまな情報を元に、地震予知器として考案作成されたものと考えられます。

[4] 京都での活躍と最後

象山は吉田松陰の密航事件に連座して蟄居中、京都に出仕を求められ、京都で活躍します。しかし、志半ばの元治元年(1864)、開国論・公武合体論を力説していたため、攘夷派によって京都木屋町にて暗殺されてしまいました。

2 片井京助直徹・佐野三郎常忠の父子 ～早撃ち鉄砲の開発から警報装置付金庫～

松代藩士・片井京助は、早撃ち鉄砲の開発者として鉄砲史の中には必ず特記される人物です。しかし、その人物像を記す史料は非常に少なく、詳細なことはわかっていません。京助は、天明5年(1785)信州佐久郡発地村の浪人であった柳澤伝五郎の子として誕生しました。柳澤京助は、若年より佐久郡八碓村の鍛冶職・片井喜太郎直治に弟子入りし、鍛冶徒弟となりました。直治と京助は、火縄銃の製作も手がけていたため、文化4年(1807)に松代藩の御用鉄砲師となりました。直治と京助の師弟は、この頃に養子縁組をしており、京助は片井姓となったようです。佐久間象山とともに、江戸の江川担庵の門下生となり、砲術家としても真田家に仕えていたようです。文政末頃に、藩主・真田幸貫から近習の士が用いる藩主護衛用の「床机まわり筒」の開発を命ぜられ、「傍装雷火銃」を完成させました。発射までの操作を短縮し、火縄銃が2発発射する間に、7発を発射できたという速射連射機能が組み込まれているものでした。この「傍装雷火銃」を発明した後、先述したとおり佐久間象山とともに「迅発撃銃」の開発にも携わりました。

また、文政2年(1819)に、江州(滋賀県)の国友藤兵衛が国産初の空気銃を製作すると、その4年後には、片井京助も空気銃の製作に成功しました。空気銃は、江州国友・堺・讃岐・加賀・信州などでしか作成されなかった稀少なもので、現在でも20挺ほどしか残存していません。

佐野三郎常忠は片井京助の実子で、父とともに「傍装雷火銃」を開発しました。片井家から松代藩佐野家へ強く乞われて養子となりましたが、酒と女と博打が好きという身持ち放埒であったため、間もなく離縁されてしまいました。

嘉永6年佐野常忠は、大きな事件を起します。父とともに開発した「傍装雷火銃」を藩外へ持ち出したのです。松代藩は、この銃を極秘事項としていました。藩の重臣にさえ本銃の使用を制限し、秘密を厳守するという誓詞を出させてから使用を許可していたほどです。

常忠は、ペリー来航によって国防が叫ばれている時に、父とともに作成したこの銃が世に知られないのは国家的損失であると訴えたのです。

「傍装雷火銃」はすぐに幕府の知るところとなり、極秘に開発していた松代藩は窮地に陥ってしまいます。この結果、幕府は秘銃の献上と製作法および使用法の技術移転を条件に、松代藩を不問としました。松代藩は、藩を一時的にでも危機に陥れた常忠を許さず不忠者として藩から追放してしまいました。その後、松代藩を追われた常忠は、仙台藩伊達家の臣下となりました。松代藩を追放されてからも、常忠は次のようなユニークな発明をしています。

警報装置付金庫

常忠は、明治8年(1875)「警報装置付金庫 日本千鳥」を製作しました。警報装置の付いた金庫としては、おそらく日本初のものであると考えられます。二重底になっており、鉄砲の撃発のカラクリが仕組みれており、錠前をあげようとしたり、蓋をあげようすると爆音が生じて白煙が立ち込めるものです。この金庫の名称である日本千鳥の千鳥とは、石川五右衛門が秀吉の「千鳥の香炉」を盗もうとして、香炉が鳴いたために捕らえられたという説話にちなんだものです。



警報装置付金庫

おわりに

信州で活躍した鉄砲や砲術を中心とした技術者は、これまでに記した佐久間象山、片井京助、佐野常忠の他にも、田野口藩御用鉄砲師であった大工原土佐介宗武、上田藩の赤松小三郎、高遠藩の坂本天山、松本藩の国友九郎兵衛信俊などの名前があげられます。今回の特別展を実施して、改めて江戸時代の信州にいた砲術家やそうした人々が開発した先駆的な発明品に注目をする必要があると感じました。

(時計博物館 学芸員 竹内 靖長)

参考文献

- 1『佐久間象山の世界』 真田宝物館 2004
- 2『日本の古銃』 澤田 平 2007

松本市博物館の日

9月21日(金)は博物館の日です。松本市立博物館とその附属施設は無料開放となり、来館者には記念品を贈呈します。

松本民芸館から

☎0263-33-1569

企画展「民芸の原点 李朝展」

期 間 7月3日(火)～9月9日(日)

「日本の民芸陶磁器展」

期 日 9月11日(火)から11月18日(日)

内 容 丸山太郎氏蒐集の沖縄、九州、美濃、瀬戸、益子等全国の民芸陶磁器を展示

体験講座「布ぞうりづくり講座②」

期 日 9月30日(日) 午前10時から3時

講 師 秋山 啓子氏(NHK布ぞうり講座講師)

費 用 材料費及び指導料と入館料を含めて1,800円

定 員 30名(要申込・初心者も歓迎)

学習講座

「民芸の心を生かした 美しい暮らし作り」

期 日 10月14日(日) 午後1時から3時

講 師 萩原 小太郎氏
(元長野県民芸協会事務局長)

費 用 300円(通常の入館料金)

定 員 50名(申込不要)

「レコードコンサート②」

期 日 10月28日(日) 午後1時～3時

案 内 人 岩原 勝氏

費 用 300円(通常の入館料金)

定 員 50名(申込不要)

窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

特別展「青春のうたーあのとき私は若かったー」

期 日 9月29日(土)～11月25日(日)

場 所 窪田空穂記念館

窪田空穂生誕130年記念の特別展です。第一部では、空穂と同時代の詩歌人の若き日のうたを展示します。第二部では、現在歌壇で活躍中の方々が青春時代に作歌した歌を展示します。今回のために選んで揮毫してくださいました。その青春の想いを感じて下さい。

第4回 短歌講座

期 日 10月14日(日)

午後1時40分～2時間ほど

場 所 窪田空穂生家

講 師 橋本喜典氏

受講料 1,500円

空穂伝統文化こども教室

■将棋の部

期 日 10月6日(土) 午前10時10分～12時

場 所 まつもと情報創造館

対 象 中学生以下(無料)

■囲碁の部

期 日 10月20日(土) 午前10時10分～12時

場 所 窪田空穂生家

対 象 中学生以下(無料)

馬場家住宅から

☎0263-85-5070

鉢伏山展

期 間 9月22日(土)～10月21日(日)

観 覧 料 通常観覧料(大人個人300円、中学生以下無料)

馬場家住宅お月見コンサート

期 日 9月19日(水) 午後7時～8時

観 覧 料 無料

お茶席の会

期 日 ① 9月23日(日) 午前10時～正午まで

② 10月21日(日) 午前10時～正午まで

場 所 馬場家住宅 主屋

参 加 料 通常観覧料のみ

協 力 ① 9月 松風の会(表千家)

② 10月 おしゃれ茶道の会(裏千家)

歴史の里から

☎0263-47-4515

裂き織り体験

期 日 ① 9月13日(木) ② 9月22日(土)

③ 10月11日(木) ④ 10月27日(土)

それぞれ午前10時～正午、午後1時～3時

受 講 料 500円～1,000円

定 員 毎回午前15名、午後15名

申 込 開催日の3日前までに、歴史の里へ電話で

草木染め体験

期 日 ① 9月22日(土) ススキ ② 10月13日(土) 桜の葉

それぞれ午前10時～11時

受 講 料 1,000円(染めたい布を別途用意)

定 員 毎回10名

申 込 開催日の3日前までに、歴史の里へ電話で

綿つむぎ体験

期 日 ① 9月8日(土) 羊毛で糸つむぎ

② 10月13日(土) 羊毛で糸つむぎ、草木染

それぞれ午前10時～正午、午後1時～3時

受 講 料 大人1,000円、子ども300円

定 員 毎回午前6名、午後6名

申 込 事務局(谷口) 090-1866-3310

糸ひき実演(歴史の里 旧昭和興業製糸場にて)

期 日 ① 9月8日(土) ② 9月22日(土)

③ 10月13日(土) ④ 10月27日(土)

午後2時～3時ころ

*実演者のつごうにより、日時を変更する場合があります。

申 込 不要

(観覧料が必要個人大人400円、中学生以下無料)

時計博物館から

☎0263-36-0969

「源氏物語の世界～國學院大學学びへの誘い～」

期 間 9月15日(土)～9月24日(月)*9月18日(火)は休館

観 覧 料 企画展は入場無料

内 容 國學院大學が所蔵している約340年前に書写された久我家嫁入本と考えられている「源氏物語」54帖を公開します。色彩豊かな源氏物語の世界をご覧ください。今回の時計博物館での公開では、お伽草紙「ものぐさ太郎」も特別公開する予定です。

梓川アカデミア館から

☎0263-78-5000

いずれも午前10時から午後5時まで 入場無料

第46回 日本水彩松本支部展

期 間 9月2日(日)～9月9日(日)

第5回 三郷美術会展

期 間 9月12日(水)～9月17日(月)

第12回 信州写真展

期 間 9月21日(金)～9月25日(火)

松本市市制施行100周年記念「松本のたから」写真展

期 間 9月27日(木)～9月30日(日)

野中秀司 油絵展 2007

期 間 10月6日(土)～10月8日(月)

第8回 自作盆栽展

期 間 10月13日(土)～10月14日(日)

高山 晃 油絵展

期 間 10月16日(火)～10月21日(日)

写団View-21 写真展

期 間 10月24日(水)～10月28日(日)

AKU展(絵画・彫刻・工芸)

期 間 11月1日(木)～11月4日(日)

旧開智学校から愛媛県西予市へ 開明学校・旧開智学校姉妹館提携20周年記念 松本市市民訪問団募集

期 日 10月5日(金)～7日(日)

訪 問 先 愛媛県西予市

内 容 愛媛県西予市重要文化財開明学校と姉妹館提携を結んでから20年が経過したことを記念して、松本市市民訪問団を募集します。

日 程 [1日目] 歓迎式・宇和先哲記念館
重文開明学校、民具館見学
交流会

[2日目] 講演会・宇和米博物館
愛媛県歴史文化博物館見学
内子町並み散策、道後温泉

[3日目] 松山市内見学

※全行程バスを利用

金 額 35,000円

定 員 30名

申 込 旧開智学校 TEL.32-5725



重要文化財開明学校

あとがき

2年半振りに仕事に復帰しました。変わったことや忘れてしまったことが多く、ブランクを取り直すのに必死です。ごたごたの毎日ですが、でも、博物館の仕事はやっぱりおもしろい。市民の皆さんにとってもおもしろい場所になるように、ゆっくり発展していきたいなあと思います。(R.Y)

あなたと博物館 No.152

発行年月日/平成19年9月1日 編集・発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL: <http://www.city.matsumoto.nagano.jp> e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp